

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

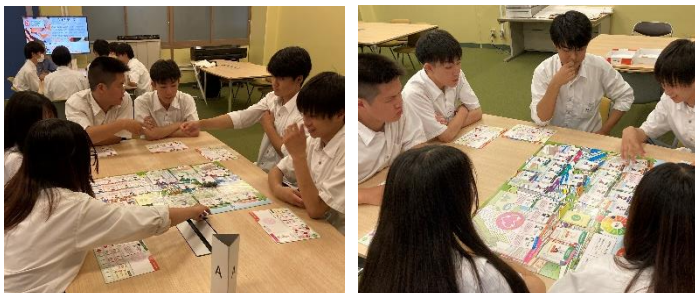
教育・研究活動名	武庫総みんなの防災ボトル(MCMBB)			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	兵庫県立武庫荘総合高等学校		
	活動 グループ名	むこっ子防災キャラバン	参加学生 等人数	11 人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	まなび支援部 部長		
	責任者氏名	星野 涼子	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	武庫第11社会福祉連絡協議会		
	代表者氏名	中山 正裕	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	特定非営利活動法人 イーライフサポートセンター		
	代表者氏名	金本 芳昭	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	むこっ子防災キャラバンでは、地域防災について学んでいる生徒が、自分たちでルールを考え防災グッズの製作等に取り組んでいる。その1つに、防災用の避難バッグは必要だが、準備が大変となり普段の持ち歩きには適さないため、プラスチックボトルに災害時に役立つグッズを入れた携帯用の「防災ボトル」をワークショップで作ってもらい、防災意識を広める活動を行っている。地域の高齢者等にも活動を広めていき、社会参画意識や地域交流の意義についても再認識する機会としたい。			
活動内容及び 実績、評価	・任意様式の添付でも可とします。 ・作成には次の内容を踏まえてください。 (活動内容及び実績) ・できるだけ活動内容のわかる写真等を掲載してください。 (評価) ①学生等 ②市民活動団体の活動者 ③指導教員の視点を踏まえて、次の項目について評価・分析したものを掲載してください。 ・想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等) ・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等 ・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等			

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載されることがありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします

＜令和5年度 防災キャラバン 活動内容、実績＞

①コミュニティコーピング体験会実施（7月10日（月）武庫荘総合高校）

- ・2年次生のメンバーを募集するための校内イベント（8名が参加）



②「映画を観る会」武庫荘総合高校開催（7月22日（土）武庫総講義棟）

- ・高齢者の方と映画鑑賞を通して交流「メタモルフォーゼの縁側」
- ・防災ボトルの紹介と配布（50個）、救助袋ミニ（上田消防建設）の紹介



③兵庫県防災ジュニアリーダー地区別研修会（8月24日（木）イオンモール伊丹）

- ・阪神地区の高校生と一緒に防災についてのイベントを実施して武庫総のブースを設置
- ・防災ボトルワークショップ（75個）、防災かるた、救助袋ミニの紹介



④地域防災訓練参加（9月16日（土）西昆陽南会館、常陽中学校）

- ・防災マップ更新の街歩き、貯水槽給水訓練に参加
- ・防災ボトル（40個）を紹介して、訓練に参加してくれた地域の方へ配布



⑤尼崎市民まつり（１０月１日（日） 中央中学校体育館）

- ・ 学生広場にブースを設置
- ・ 防災ボトルワークショップ（75 個）、防災かるた、救助袋ミニの紹介



⑥武庫まつり（１０月２８日（土） 西武庫公園）

- ・ ふれあい広場にブースを設置
- ・ 防災ボトルワークショップ（150 個）、救助袋ミニの紹介、マイ避難カード（災害対策課）



⑦地域防災訓練（１月１７日（水） 武庫北小学校）

- ・ 地域の防災行事、避難所開設訓練に参加
- ・ 防災ボトル（50 個）を紹介して、訓練に参加してくれた地域の方、小学生へ配布



<活動報告>

- ①甲南リサーチフェスタ 活動発表（１２月１７日（日）オンライン）
- ②尼崎でつながる地域の活動報告会（２月２日（金）園田学園女子大学）
- ③武庫荘総合高校学習発表会グループ発表（２月３日（土）武庫荘総合高校）
- ④市民運動理事会、イーライフサポートへの報告（３月１８日（月）武庫西学習プラザ）

＜活動評価＞

今年度より、生徒のボランティアとして活動を行っていた「防災キャラバン」を「総合的な探究の時間」のゼミ活動として授業の一環に取り入れた。また、尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業として助成金が使えることで、活動の機会が大きく広がった。

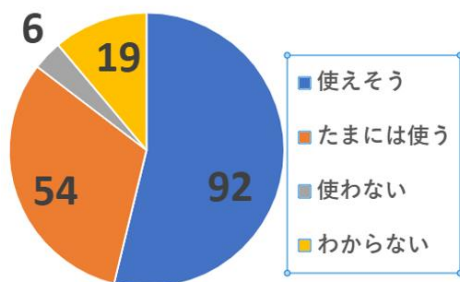
想定していた活動として「防災ボトル」は、地域のイベントなどでの子供向けワークショップをおこなったり、協働する団体の活動参加時に紹介して配布したりと、防災を考えるきっかけとして広めることができ、今年度の主となる事業となった。他にも地域へ防災を伝える取組みの一環として、生徒が主体的に発案して制作した「防災かるた」も並行して活動を行った。また、ハザードマップについて知りたいという生徒の意見から、地域避難訓練に参加させてもらい、地域の防災マップ更新のための街歩きに参加することができた。達成できなかったこととしては、阪神特別支援分教室のカフェに参加することを検討していたが、活動のタイミングが合わず実施できなかった。分教室とは共同学習としての調整を進めており、今後一緒に活動できる事業を検討する方向である。

活動を通して生徒は、地域の方に喜んでもらいながら防災意識を持ってもらうことを実感できた。また活動の機会が多くあったことで、毎回のふりかえりのなかでスムーズに体験してもらう方法を考え、必要な準備を提案する等主体性を持って活動するようになり、教員の指示がなくても行動できるように成長することができた。

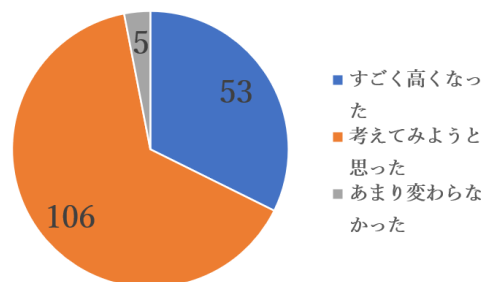
活動と一緒にいった、上田消防建設（救助袋ミニ）や災害対策課（マイ避難カード）の方々からは「企業や行政から防災のことを伝えようと思っても行き届かないが、高校生が活動することで、子供や家族連れ、高齢者の方に興味を持ってもらって、楽しく伝えることができる」と、高校生が防災を発信する意義についての意見を頂いた。

●ワークショップを行った際のアンケートでは「防災ボトルを普段から使えそう」「防災意識が高くなった、考えてみようと思った」という意見を多くいただいている。

防災ボトルを普段から使えるか



防災意識は変わったか



生徒の感想

○自分自身の防災意識を上げていくとともに、まずは自身の周りの家族や友達に、防災についてもっと伝えていきます。

○知識を深めることが出来たのはもちろん、改善していかなければならない点も見つかりました。これからもたくさんの活動に参加させていただく機会があると思うので、防災や災害の知識、伝える力などをしっかりつけていきます。

○「子どもと防災について話したことがない」という人が結構多かったため、今後も防災を広めていく活動をして少しでも防災を考えてくれる人を増やしていきたいと思いました。私自身まだまだ防災に関する知識が少ないと感じたため、これからの様々な活動を通して身につけていきたいと思います。また、その知識を色々な人に広めていけるよう努力していきます。

<市民活動団体の活動者より>

・活動成果の達成度合い

予定していた地域のイベントや防災訓練等へ高校生が参加してくれてとても良かった。若者が参加することで活気が出て、子供たちの反応も良い。今年度の活動は十分達成されており、ぜひ今後も活動を続けてさらに広げてほしい。防災というと重たい印象になりがちだが「防災ボトル」があることで喜んでもらいながら防災を考えていくきっかけになっている。

・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等

高校生がワークショップという形で子供に防災を伝えることで、作業をしながら楽しく防災について考えることができているので、今後も子供に防災を伝える活動に取り組んでほしい。

映画の会で「防災ボトル」を渡した高齢者の方からは、玄関に置いてあるとか、何かあったら手の届く所にあるなど、安心のお守りのような存在であると言っている方もいた。一人暮らしの高齢者にとっては、心の拠り所としての役割も十分にある。

・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

「防災ボトル」という主軸となるコンテンツがあるのが強みであると思う。生徒たちも色々な場所で活動する中で、自発的に子供に声掛けをするなど自信を持って取り組む姿が見られた。次年度以降も「防災ボトル」の形にとらわれずに色々な取組みに挑戦してほしい。